

あとがき

句集や歌集に、作者が句や歌への解説を付けることは、まず、ありません。邪道とされています。私もそう思うのですが、この句集は補足というか、句の不出来を補おぎなうかのような説明を付けました。お恥ずかしい限りです。

結果的に、不出来の補いになってしまっているのですが、それが目的ではないのです。世の中はめまぐるしく動いています。立て続けに起きる政治的出来事や事件を、私たちは一か月も覚えていられない状況にあります。そこで、補いが必要と思ったわけです。

事件の都度に覚えた不安や不満や怒りも、そして評価するべき点も忘れてしまいます。これでは、過去から繋がる今を理解することができません。今の政治を評価することもできません。幸い、10年間書き留めた川柳ノートが3冊あり、これを読んでみました。すると蘇るのは憤懣ばかりで、評価するべきものを見つけるのが難しいことに気付くのです。

しかし、未来を考えるならば、「まあ、こんなものだよ」「政治に期待をしてもしょうがないよ」「自分のことは自分で守るしかないね」との諦念に明け暮れていてよい訳がありません。私たちは、子や孫に良き社会を残せるかどうかの正念場に立っています。今、安倍政権の本質を見抜き、これにどう対応するのか、どう行動するべきなのかを見極めなければならぬと思っています。

では、安倍政権の本質とは何でしょうか。

これを端的に表しているのが、安倍首相が繰り返す「私は立法府の長」発言と、復興特別税のうち、復興法人税だけをいち早く廃止したことです。前者は、首相たるもの行政権と立法権を持たねばならぬとの主張です。ならば、三権分立の否定です。つまり、独裁です。後者は、安倍政権が財界の利益と一体であることを教えています。この認識を市民が共有することが大事ではないでしょうか。ここから、安倍政権への正しい対処の仕方が見えてきます。

一方、己が人生の見極めも必要な年齢になりました。2020年は、父の死を一因に30年間の教員生活を辞めて（早期退職）から、15年目に入ります。この間、結構、頑張ったかなと思います。退職したその年に匝瑳市フォーラム21委員、漢検2級合格、その後、日本史検定1級合格4回、12年間匝瑳市サタデースクール講師、千葉県立東総工業高校非常勤講師（1年間）、国勢調査や公立機関の実態調査員、近所の小学生との勉強会（現在進行中）、匝瑳市交通安全協会理事・支部長（4年間）、匝瑳市立椿海小学校学校評価委員（4年間）、同小学校平和教室講師（現在進行中）、憲法を生かす匝瑳九条の会代表（2013年から）、『語り継ぐ戦争76と民主主義』出版、そして、この川柳集です。

以上、第二の人生を「お金を目的に仕事はしない」「できることは、拒まずに引き受ける」「がむしゃらにやらない」を指針に暮らしてきました。第三の人生の選択はないと思っていましたが、今、その必要を心身が感じています。

さて第三の人生です。これは母の死（2019年5月28日）が引き金のような気がします。92歳まで生きた母の死をこなしきれないままです。しかし、確かなことは、自分も死ぬことです。母の死は、もうこれ以上、死を直視せぬままにすることを許しません。確率統計的に言うと、あと15年程度の時間があります。最後の人生設計、民生委員をすることは決ま

っています。さあ、これからどういう選択をするのでしょうか。これを20歳の青年のように、楽しんでいます。できることなら、人々に感謝し、風土に親しみ、こころ静かに生きたいものです。

歳時記の厚み豊かな暮しあり

ここまでお付き合いいただいた、あけび書房の久保則之さん、清水まゆみさんに、第三の人生最初の感謝と親愛の情をお送りします。

2020年1月5日 八角宗林